

## 第3回 吉田島高等学校運営協議会議事録

令和5年3月20日 15:00～ 本館2階 セミナールーム021

### 1. 開会

- ・副校長挨拶により開会

### 2. 校長挨拶 (岩崎校長)

2校長あいさつ

今年度3回目の学校運営協議会となる。3月1日に無事、卒業式を終えることができた。コロナ禍の高校生活で行事などには参加できなかったが、その他のことに取り組み成長してくれ、安堵している。

今後3月中はコロナ対策を行いながら行う。4月からはコロナ前の状態を目指していく。アフターコロナでの教育活動をどうしていくのか、考えながら取り組んでいく。学校運営協議会は今年度を振り返り、ご意見いただきたいと思う。

### 3. 委員紹介

- ・副校長より「吉田島高等学校運営協議会」名簿に沿って委員の紹介。

### 4. 協議

(1) 令和4年度 学校評価報告 (実施結果報告)

#### ①教育課程、学習指導

(学事グループリーダー 阿出川総括教諭)

4年間の目標、1年間の目標をたてた。学習支援研究機構の方に来ていただき、授業方法の検討を行った(OKJ)。今後も学習意欲を含め授業づくりを考えていきたい。また、指導と評価の一体化をめざしていきたい。教育課程は、専門教育を充実させるために考えていきたい。ミックスHRになるがアンケートを元に考えていきたい。生徒の意見も取り入れていきたい。

(熊沢会長)

専門学科らしい教育課程を目指してほしい。

(学事グループリーダー 阿出川総括教諭)

そのように考えていきます。

(天野委員)

手助けが必要な生徒への取り組みとは何か。

(学事グループリーダー 阿出川総括教諭)

義務教育での内容を教師が教えるだけでなく、生徒同士で教え合えるようにしている。

(企画情報グループリーダー 露木総括教諭)

外部機関の連携ということで、OKJを取り入れた。黒板での説明だけでなく、生徒に考えさせる。さらに、生徒の言葉で説明できるようにさせてきた。授業評価のアンケートでは、7月と12月の比較では、前向きな意見が増えてきている。理解している生徒も多くおり、手応えを感じている。次年度以降も研究し、より良くしていきたい。また、ICTの利活用ということで、毎時間はできなくても、視覚的

なもので理解を深められるよう利用できた。今後も研究していきたいと思う。

(生徒活動グループリーダー 高梨総括教諭)

生徒が主体的に活動できるようにした。コロナ禍の中、生徒たちにルールを決めさせ、雨天時には生徒たちから、より良い方法を考え、提案して実施できた。今後も生徒たちと考え、生徒が主体的に活動できるようにしていきたい。

## ②生徒指導・支援

(生徒指導・支援グループリーダー 小澤総括教諭)

校内のルールの変更を行った。ジェンダーに関わることで、着用したい制服を選べるように変更した。自転車通学のヘルメットなども検討した。

行政に繋がなければならない生徒が増加傾向にあった。18歳成人もあるが、規則を守る意識を来年度以降も続けていきたい。

現在の高校生は、マスク生活のため、表情から気持ちを汲むなど、ソーシャルコミュニケーションスキルを身につけるために、授業等でも取り入れたい。SSWやSCなどにも協力してもらいたいと考えている。

(石井委員)

吉田島高校になってから生徒の質が上がったと思うが、下校時に前の横断歩道の前に立っていると、車が渡るのかと思ってしまう。

(生徒指導・支援グループリーダー 小澤総括教諭)

今後役立てたい。

## ③進路指導・支援

(キャリアグループリーダー 片山総括教諭)

ガイダンスを実施してきました。18歳成人に関する講演会などの話を聞く中で、生徒たちは様々な視点からものを考えなければならないことはわかったが、物事を俯瞰する力を授業でも養って行きたい。インターンシップは有用であるのご意見を頂いたので、力を入れていきたい。進路が決まらなかったり、フリーターをえらんだ生徒がいる。生徒の中には、相手とのコミュニケーションを表情を見ながら取らなければならないと思う。また、適性検査の方も最低限の学習にも取り組まなければならない。

(石井委員)

就職と進学が半々とのことですが、社会に出たほうが良いのではないかと。

(山口委員)

インターンシップに力入れてほしい。コミュニケーションのとり方は表情が見えないマスク生活があるから専門家を招いて学ばせてほしい。

(熊沢会長)

コミュニケーション力はしっかり身につけてほしい。

(キャリアグループリーダー 片山総括教諭)

企業等にも来ていただき、それぞれの現場の声をきいて行きたい。世の中は便利にはなったが、人と人とのコミュニケーションを育てていきたい。

## ④地域等との協働

(専門教育・広報グループリーダー 宮本総括教諭)

コロナで人と人とのコミュニケーションが身につかない現状の中、外部人材の活用として

地域や企業、大学の方に講師として来ていただき、会社や上級学校の現場の声を取り入れている。地域との協働について今年度はコロナ禍だが、学校紹介のチラシを周辺の中学校に配付し説明してきた。何校かは中学校へ出向き紹介させていただいた。本校への興味関心を持ってもらえていることは入試などの結果として関心を持ってもらえている。連携事業においては農業3科と生活科学科合同で連携できる取り組みが魅力であり今後も継続していきたい。学校HPやツイッター以外にもInstagramなど新しいものを取り入れ、新たな発信方法を検討しながら迅速に本校の取り組みを知ってもらえたらと思っている。広報誌は吉高リポートとして紙面をお借りしている。開成の皆さんに知っていただく取組として継続していきたい。冊子4ページ魅力と特色ある県立高校づくりのアンケートにおいて、本校に対してどんな気持ちなのかまとめさせていただいた。コロナ禍であったがほかは満足できる取組となった。

(石井委員)

広報誌は良いPRだと思う。開成駅前の花壇がきれいで地域に貢献できていると思う。中学校訪問は1校だけですか。

(専門教育・広報グループリーダー 宮本総括教諭)

周辺の地域の登校してきている学校に訪問している。全ての中学校ではないがほとんどの中学校を訪問している。

## ⑤学校管理、学校運営

(管理グループリーダー 菊池総括教諭)

開成町との防災連携において本校を避難所にした場合の打ち合わせや、今年については先日防災訓練を行ったが、その際に防災の専門委員や消防署のアドバイスを取り入れた訓練を実施した。安全点検を実施して校内のロッカー等を固定したり耐震対策を行った。この安全点検においては改善には経費がかかる面もあるため継続的にいき、長期的に予算を立てながら実施していきたいと思う。

(岩崎校長)

避難訓練のあり方は本来こうあるべきと思った。地震が起こったらまず何をしないといけないかという動機づけや、放水訓練を職員が行ったり消防設備の使い方を教わった。使い方がわからないと何もできない防火シャッターについても煙の方向に逃げないなど、建物の特性と煙の特性を知り、すぐに閉められることも意識として持たないといけない。色々な形で防災意識を高める必要を認識した。

## 6 報告事項

(中川副校長)

色々な視点からご協議いただきありがとうございます。内容を踏まえて学校運営の参考にさせていただきたい。後日記録の資料を送付させていただく。次に各年次リーダーより簡単に生徒の様子について報告。

(1年次リーダー 小澤総括教諭)

1年次生は入学当初落ち着かない部分もあった。それにともない進路変更もでている。年次

末に進路変更する生徒も5名ほど出た。コミュニケーション不足が目立つ学年でSNSでのトラブルが多い。生徒から話を聞くと些細なことからの思い違いであるが、自分たちで解決する力が乏しいのが大きな課題である。1年間ミックスホームルームであったため他学科の生徒と交わる機会となっており、他学科の生徒との友人関係を築く事につながったと思う。来年度の修学旅行は北海道方面、自分の進路等に生かせるよう計画している。

(2年次リーダー 片山総括教諭)

2年次は学科別のクラスとなっている。2年次が終わるにあたって、成績不良などで進路変更を考えている生徒が8名ほどいる。1年次では友人関係によるものが多かったが、2年次で変わってきた。各科によって勉強や教え方の方針が異なるため、その中で他学科を羨む生徒もいる。それらも含めて1年次から指導して行きたい。久しぶりに修学旅行に行けた年次である。課題としては事前学習の力の入れどころ。今回、北方領土の島民の講話もあったが、遠行であることと、生徒にとっては想像しにくいこともあって理解が及びにくかった面もある。もう一度行くなれば事前学習をしっかりとやりたいと思った。3年次は生徒数が100名程度になる見込み。今後進学か就職か考えさせていく。

(3年次リーダー 露木総括教諭)

先日124名が卒業した。入学当初は150名近くいたが26名が進路変更をしていった。入学当初からコロナ禍でマスク着用やリモート授業や分散登校で、教員にとっても初めての授業形態だった。各行事も縮小され、自分をアピールする場面も少なかった。生徒は其中でどう表現したら良いのかわからず過ごした者もいる。マスクを取るとわからない生徒もいるくらいで、なんとか無事に卒業した。進路の話もあったが就職50名程度の中で公務員として働く生徒もいる。進学も専門学校に進む生徒が多く、本校3年間での勉強を受けてさらに良い方向へ進んでいく生徒もいる。コロナが終わりどうしていくのか心配だが無事に送り出せてよかった。

## 7 その他

(中川副校長)

その他ということで生活科学科より。

(企画情報グループ 内田)

本校の生活科学科では家庭クラブという生活科学科の中で学んだことを生かして地域貢献や特別活動を行ったり、家庭クラブ活動として行っている。生活科学科では6月に開成町で行われるあじさい祭りに出店をさせていただく話となった。現在産業振興課と話を進めており、開成町のブランドである開成弥一芋の親芋を使ったコロッケをフードロスの削減等の考えを通して、商品開発ということで試作している。本日、生徒たちが放課後の時間に試作した弥一芋コロッケを皆様にご試食頂きたい。この後、生徒より皆様にお配りします。

(弥一芋コロッケの試食)

## 8 閉会

・副校長挨拶により閉会